

平成 28 年度 秋季企画展

9/13(火) ▶ 12/11(日)

つつみ
堤
を
築きずく

—大和川のつけかえ工事—

堤防から大和川つけかえ工事がみえる

館長と学ぶ 大和川講座

9/24(土)

「大和川のつけかえ運動」

10/29(土)

「大和川のつけかえ工事」

11/26(土)

「つけかえ後の大和川」

講師／館長 安村 俊史

13:30 ~ 15:00

歴史資料館 3階研修室にて

定員 40名 / 参加無料

申込不要 (当日の13時より受付)

史跡 高井田横穴特別公開

10/15(土)

10:00 ~ 15:00

申込不要、参加無料

職員によるツアーガイド

10時 / 11時 / 13時 / 14時

月曜休館 (祝日は開館)

入館無料

9:30 ~ 16:30

大阪府柏原市高井田 1598-1

電話 072-976-3430

JR 大和路線

高井田駅から徒歩約 5分

近鉄大阪線

河内国分駅から徒歩約 15分

今から300年ほど前まで、人々にとって、大和川は恵みをもたらす川でもあり、水害をもたらす川でもありました。やがて、水害にこまる人たちは、大和川をつけかえてほしいという運動をはじめることになりました。そして、宝永元年（1704）に大和川はつけかえられました。それでは、つけかえ工事はどのように行われたのでしょうか。今回は、堤防の発掘調査成果を見ながら、大和川つけかえ工事のようすについて考えてみましょう。

大和川のつけかえ運動

つけかえ前の大和川は、久宝寺川（長瀬川）、玉櫛川（玉串川）、平野川などに分かれて流れ、大阪城の北でもとの淀川（大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかな平野を流れているため、大雨が降るとすぐに洪水をおこしていました。

やがて、洪水に苦しむ人たちから大和川をつけかえてほしいという運動がはじまりました。幕府（国）はつけかえが必要かどうか、なんども考えましたが、いつもつけかえは必要ないという結論が出ていました。つけかえに反対する人たちがたくさんいたことも理由のひとつだと考えられます。新しい川ができるとこまる人たちが、つけかえに反対したのです。そのため、つけかえが行われることはありませんでした。

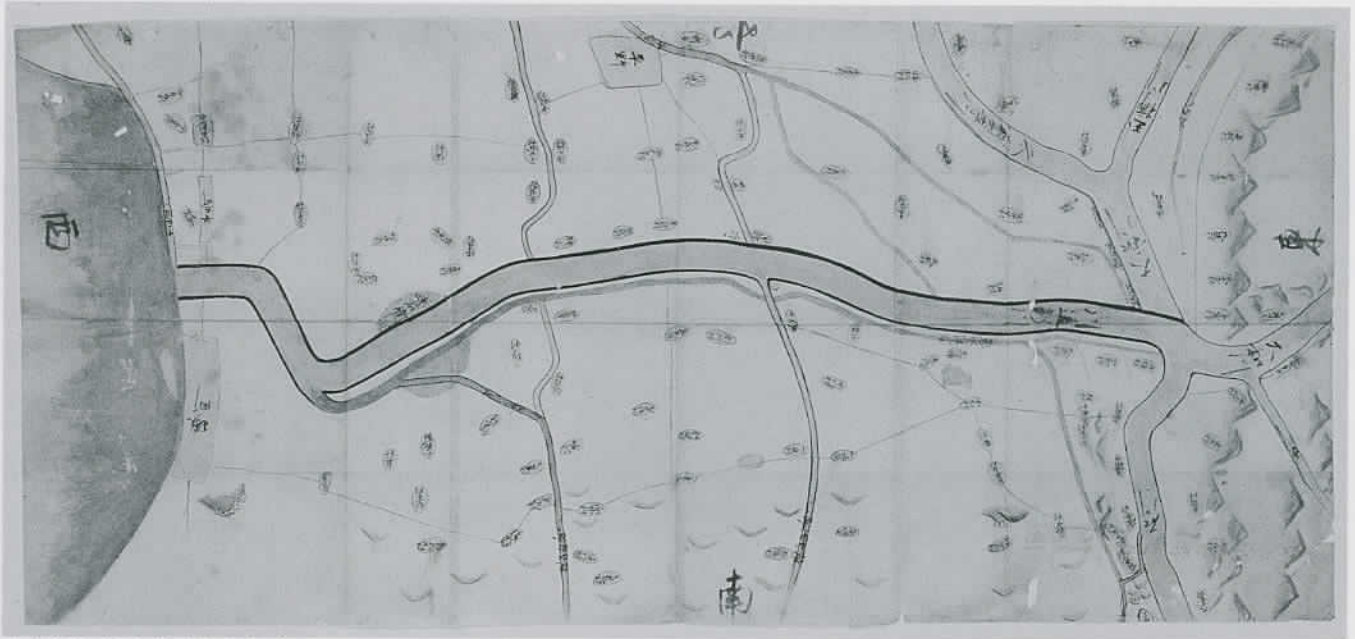
つけかえが決まる

貞享4年（1687）にも、つけかえをお願いする文章が幕府に出されましたが、つけかえはできないという答えが幕府からかえってきたようです。それから、つけかえを願う文章が出されることはなくなり、大和川の流れが少しでもよくなるような工事をしてほしいというお願いに変わります。そして、そのお願いに参加する人たちもどんどん少なくなっていきました。

それから10年以上、みんながつけかえをすっかりあきらめたころになって、幕府は急につけかえることを決めました。つけかえると洪水がなくなるだけでなく、幕府にたくさんお金が入ってくると考えたからです。つけかえ工事で幕府が使ったお金は、もとの川に田畑（新田）をつくるためにはらわれたお金で、ほとんどもどってきたのです。そのうえ新しくできた田畑からは、年貢（税金）が入ってくるようになります。幕府にとって、つけかえ工事はお金が入ってくることだったのです。



つけかえ前の大和川



かわたがえしんかわず なかけもんじよ
川違新川図 (中家文書)

つけかえ前とつけかえ後の大和川を重ねて描いた図です。大和川の南堤防に沿って「悪水落
 ぼり おちぼりがわシ堀」という川があります。これが今の「落堀川」です。また、大和川つけかえといっしょに、
 にしよけがわ だいじょうがわ西除川や大乗川もつけかえられていることがわかります。新しい大和川より南側に水害がおこ
 らないように、よく考えてつけかえ工事がおこなわれたことがわかります。それでも、大和川
 の南側では、なんども洪水こうずいがおこることになったのです。

大和川のつけかえ工事

つけかえ工事は、宝永元年（1704）の2月にはじまり、10月に新しい大和川が完成しま
 した。わずか8か月で大工事が終わったのです。信じられないようなスピードです。工事を早
 く終わらせることができたのは、何人かだいみょうの大名がぶんとんして工事をおこなったことや、でき
 るだけ川の底を掘らずに工事を進めたためでした。

工事をはじめめる前に、高さや長さを正確に測り、堤防をつくるのに必要な土の量などを正確
 に計算けいさんしています。どうしても掘らなければならない土の量と、堤防に必要な土の量がほぼ同
 じになるように考えて工事が進められたようです。こうすれば、工事をむだなく、早く終わら
 せることができるとわかっていたのです。堤防は、北側の堤防が幅15間けん（27.3m）、高さ3間
 （5.4m）。南側の堤防は幅13間けん（23.6m）、高さ2間半けんはん（4.5m）で、北側の堤防のほうが大き
 くつくられていました。北側の堤防がつぶれると、大きな被害がでると予想ひがい よそうされたからです。

つけかえ後の大和川

もとの川には田や畑がつくられました。これを新田しんでんといいます。新田の多くでは、綿わたがつく
 られました。この綿からつくられたじょうぶな河内木綿かわちもめんは、高級品として高いねだんで売れま
 した。もとの川の近くでは、洪水こうずいの心配もなくなりました。



つつみ きず 堤を築く

大和川堤防の発掘調査から、堤（堤防）には近くで掘り出された土が使われ、粘土を積み上げているところも、砂のところもあることがわかります。また、作物や草がはえたままで堤が築かれていること、計画どおりの大きさにつくられ、表面には芝がはられていたことなどわかりました。形さえととのってれば、作りかたはどうでもよかったことがわかります。

ふじいでらし こやま やまとがわていぼう

藤井寺市小山の大和川堤防

1988年に、大和川左岸（南側）
ではじめて行われた堤防の調査です。
現在の堤防の下につけかえ当時の堤防が残っていて、中心には堅い粘土が積み上げられていることから、つけかえ当時の堤防は、とてもがんじょうな堤防だったと考えられました。幅は21.5m、高さ3.6mで、計画よりも少し小さくなっているのは、長いあいだに土がおさえつけられたためと考えられます。工事のために木の杭が打たれていたことなどもわかりました。

藤井寺市船橋の大和川堤防

1997年に、同じく大和川左岸で堤防の調査が行われました。ところが、ここでは、たくさんの砂が積み上げられていました。砂でつくられた堤防はくずれやすいので、ふつうは砂を使いません。近くの落堀川を掘った土が砂ばかりだったため、そのまま砂を積み上げて堤防をつくったようです。大きさと形さえととのってれば、それでよかったことがわかります。さらに堤防を2回大きくしていることもわかりました。

（写真は藤井寺市教育委員会提供）